

## 北海道淡水魚保護フォーラム 「サクラマス再生をめざして」

### 北海道淡水魚保護ネットワーク

後藤 晃<sup>1)</sup>・帰山 雅秀<sup>1)</sup>・有賀 望<sup>2)</sup>・浦和 茂彦<sup>3)</sup>・菊池 基弘<sup>4)</sup>・工藤 秀明<sup>1)</sup>  
鈴木 俊哉<sup>5)</sup>・坪井 潤一<sup>6)</sup>・中川 大介<sup>7)</sup>・永田 光博<sup>8)</sup>・針生 勤<sup>9)</sup>  
平田 剛士<sup>10)</sup>・福島 路生<sup>11)</sup>・森田 健太郎<sup>12)</sup>

### Hokkaido freshwater fish conservation forum “Toward rehabilitation of masu salmon populations”

#### Hokkaido freshwater fish conservation network

Akira Goto, Masahide Kaeriyama, Nozomi Aruga, Shigehiko Urawa, Motohiro Kikuchi, Hideaki Kudo,  
Toshiya Suzuki, Jun-ichi Tsuboi, Daisuke Nakagawa, Mitsuhiro Nagata, Tsutomu Hariu,  
Tsuyoshi Hirata, Michio Fukushima and Kentaro Morita

北海道は日本の中でも自然の宝庫といわれています。自然環境を守るためには、生態系全体を守るとともに、その基本構成要素の一部である在来種を保存することが重要です。しかし、近年、北海道でも開発事業に伴う野生生物の生息環境の悪化、乱獲や外来種の影響などにより、野生生物の種の減少が進んでいます。例えば、北海道に生息する淡水魚は71種1亜種を数えますが、絶滅のおそれがあるなど保護上重要な種は22種、8地域個体群、7留意種にも及んでいます。また、外来種ブラウントラウトが河川湖沼生態系や在来種に影響を及ぼしています。このような現状を踏まえ、北海道の淡水魚と自然生態系を守るため、「北海道淡水魚保護ネットワーク」が設立されました。私達ボランティア活動の中心は、北海道の各地に出向いて市民向けの淡水魚保護フォーラムを年1回開催することです。

第10回目となる淡水魚保護フォーラムでは、サクラマス

はアジア固有のサケ科魚類であり、特に日本人にはもっとも古くから親しまれてきた“鱒(ます)”です。富山名産の鱒の寿司は、古来サクラマスを材料にされました。しかし、その個体数は近年低いレベルで推移しています。資源回復のために幾つかの取り組みも行われていますが、その一方で、近年でもダム建設により消滅する運命にある個体群もあります。また、サクラマスは、漁業だけでなく遊漁などのリクリエーションの対象としても利用頻度が高いほか、最上流域で産卵するサケ科魚類として特異的な物質循環の担い手ともなっており、多様な生態系サービスを提供する天然の在来魚です。以上のことから、一般の方々と北海道の河川環境の未来を考えていく上で、サクラマスはふさわしい題材であると考えました。

まず、淡水魚保護ネットワークの運営委員が集まり、フォーラム内容や講師陣について審議を行いました。第10回のフォーラムでは、サクラマスとい

1) 北海道大学大学院水産科学研究院 2) 札幌市豊平川さけ科学館 3) 北太平洋湖性魚類委員会事務局  
4) 千歳サケのふるさと館 5) (独)水産総合研究センター本部 6) 山梨県水産技術センター  
7) 北海道新聞社北海道新聞厚岸支局 8) 北海道立水産孵化場 9) 釧路市立博物館  
10) フリーランス記者 11) (独)国立環境研究所 12) (独)水産総合研究センター北海道区水産研究所

う魚を科学的なレベルを落とさずかつ平易な説明で知ってもらい、生態系を保全することの意義についても考えた上で、そのサクラマスがどのような状況に置かれているのか、サクラマスの保全に向けて現在どのような取り組みが行われているのか、そして今後、どのように保全し利用していくべきなのか、一般市民を交えて話し合うことを目的としました。また、フォーラムの事前にチラシ(図1)と講演要旨集を作成し、各関係機関に発送するとともに、インターネットのホームページでも紹介しました。

2009年3月1日に千歳市民文化センターにおいて、「ふるさとの魚、サクラマスを考える～生態系保全と再生～」というタイトルで第10回の北海道淡水魚保護フォーラムを開催しました。会場には180名ほどの参加者が集まり、近郊の札幌市や千歳市を中心に、遠方は茨城県や富山県から参加された151名の方々に署名して頂きました(表1)。

表1 フォーラムに参加し署名して下さった方々

お住まい	人数
札幌市	62
千歳市	33
恵庭市	7
函館市	6
室蘭市	4
北広島市	3
旭川市	3
釧路市	2
小樽市	2
富良野市	2
苫小牧市	2
道内その他	8
道外(富山県・茨城県・千葉県)	3
不明	14
合計	151

フォーラムでは、まずコーディネータの森田健太郎から「サクラマスってどんな魚？」という演題でサクラマスの生態について説明しました。次に横浜国立大学の松田裕之教授から「生物多様性条約が守る生態系サービスとは何か」について基調講演をして頂きました。そして、北海道立水産孵化場の宮腰靖之科長から「北海道のサクラマス増殖と生息環境の現状」について講演を行って頂きました。その後、北海道大学フィールド科学センター玉手剛研究員、北海道技術コンサルタント渡部恵三氏、フィッシングジャーナリスト佐藤成史氏、豊平川サケ科学館有賀望さんの4名を交えて、パネルディスカッションを行ないました(写真1)。パネルディスカッションでは、1.ダム建設がサクラマスを含む河川生態系へ与える影響、2.魚に配慮した新しい河川改修の方法、3.サクラマスの遊漁と河川利用、ゾーニングの提案、4.生態系保全のための環境教育の役割、の4点について特に熱い議論がなされました。

今回のフォーラムを通じて、参加して頂いた方々には北海道のサクラマスや河川環境の現状について関心を持ってもらえたと思います。また、今後、サクラマスを含む淡水魚のすみやすい豊かな流域や河川への復元に、研究者の知見や市民の意見を保護や開発行政にどう活かすかを論議することで、現在北海道の河川生態系で起こっている様々な問題の解決に有効な方策を得ることが期待されます。



写真1 パネルディスカッションの様子

北海道淡水魚保護フォーラム No.10 in 千歳

# ふるさとの魚、サクラマスを考える ～生態系保全と再生～

■と き: 2009年3月1日(日)午後1時～4時30分  
■と ころ: 千歳市民文化センター

●と き  
2009年3月1日(日)午後1時～4時30分

●と ころ  
●千歳市民文化センター  
〒1066-0038 千歳市北条2丁目2番11号 TEL.0123-26-1181

●主催  
北海道淡水魚保護ネットワーク

●後援  
北海道、千歳市教育委員会、北海道新聞社、HBC、エコ・ネットワーク、千歳サケのふるさと館、北海道大学淡水魚研究会、パタゴニア日本支社、イトウ保護連絡協議会

交通  
●JR千歳駅から徒歩7分

千歳市民文化センター

**入場料無料**  
※決まり事にはお気をつけ下さい

●お問い合わせ先  
農林水産省 農林政策課 / コーディネーター  
独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究課  
〒009-0902 北海道厚岸町厚岸118  
TEL.0154-41-4138 (代表) E-mail: mwrts@affrc.go.jp

pro natura NACS-J patagonia  
Founded in 1986 - Japan

このフォーラムは2008年度のPRO NATURA FUNDによる助成金によって開催されます

図1 フォーラムの宣伝用チラシ

